

積極的に辞書を引く姿勢の育成を目指して

——『ジーニアス英和辞典 第3版』を使った入門期指導



芳賀修栄

1. Which type of dictionary to choose?

本年度山形西高校では、『ジーニアス英和辞典 第3版』を含む2冊の英和辞典と和英辞典1冊を新入生に推薦した。大学進学希望者がほとんどであるため、受験用として、より使いやすいものを、英語科教員の合議により複数選んでいる。

しかし、自ら使う方法を教えないと、高校での英語学習に対処できない。そこで初期指導で重視することは、「辞書を積極的に使おうとする姿勢」を育成することとなる。

2. Just for looking up the word or expression?

2.1 Situation and problem

「/ /で囲まれたヘンな文字は何?」「って何の意味?」「意味がたくさん書いてあるのでどれを選べばいいのか分からない」などが、高校での最初の授業で実際に辞書を使った時点での代表的な質問だ。

初期の辞書指導を集中的に行うのは4月の1回だけだが、その後も、レッスン終了後の10~20分、あるいは講習時の10分など、少しずつどこかで時間を見つけて、語彙を指定しての検索などを行わせている。幸い、本校は英語が好きな生徒が多いので、指導によく従ってくれており、2学期を迎えた現在では、辞書を引く速度も随分向上したと感じている。

しかし「習うより慣れよ」だけでは無理があり、「自然に使い方に慣れていく」初期指導も必要だと感じている。

2.2 Solution

辞書指導のひとつとして、調べて知って面白そうな語句を時折授業で調べさせている。1年生の1学期における授業での活動例を以下に述べる。単語を調べて終わりではなく、気分転換も兼ねた自己表現活動を含んでいる。

●活動例と手順：その1

①bで始まる4文字の単語を調べさせ、baby, back, bake, bank, baseなど、生徒が調べた単語をいくつか板書する。

②辞書でbarkを調べるように指示する。『ジーニアス』では例文としてHis bark is worse than his bite. (彼は口やかましいが本心は悪くない)が載っている。これにYour English teacher's bark is worse than his bite, so don't worry. (=What he says sounds much worse than what he'll do.)を追加して、教科担任の自己紹介にした。

③調べた4文字単語の辞書の例文を利用して、自分の日常生活を説明する英文を書かせる。生徒作の英文例は、I have a bath every day./I had a bath last night./I was born in 1989 in Yamagata./ My father beat me at shogi. などである。(下線は調べた単語)

3. Only to be able to use what you look up?

3.1 Focus a bit on form

調べた英語を、受験用の知識としても、コミュニケーションの道具としても、役立てることがで



きる辞書指導はないだろうか？

そこで初期指導だからこそ扱える基本語彙を利用することを考えた。たとえば open。

●活動例と手順：その2

①辞書は使わず，リスニングから始める。

Close your eyes and use your imagination. OK, now let's open an imaginary door. Don't open your eyes, just imagine. Now there's a bookstore in front of you. But it won't open until ten o'clock. Oh, look. Here comes a man. He opens the door with the key. He says to me, "The store opens at ten." ... Now open your eyes. And open your dictionary to page 1312 and 1313. You can find the word 'open' here.

②上の下線部を含む英文プリントを渡し，それぞれの意味が open の項目のどこにあるかを辞書で探させる。

③上記の英語を発音練習し，音節，反対語，活用形，SVO などについても，時間に余裕があれば説明する。意味の認識に加えて文型面にも言及したいのが本音であり，自動詞や他動詞についても触れ，これからの文法，構文学習への下地としたいという意図でもある。

open を辞書で調べる機会は，高校英語では少ないだろう。だからこそ初期の段階でそれを実行してみる。open の他にも eat, enjoy, finish, mind などの語で行うこともある。

●活動例と手順：その3

強引に辞書を引かせる活動に，1つだけ異なるものを選ぶ「Odd One Out」を用意している。生徒はまず odd を調べざるを得ない。続けて板書またはプリントで high, warm, lucky, famous などの語を提示し，答えを1つ選ぶように指示する。この活動では，() の後にある表示 (-er 型) に気づかせるのを狙いとしている。

3.2 Variation

初期の辞書指導では，教室英語にも触れている。英文読解において，内容確認の Q&A を行う際に使うフレーズの中に，「答えはそれで（そこ

を見て) すぐ分かる」がある。There is a hint in there. だけでなく There is a hint, I think it's a giveaway. と言うこともあるので，giveaway を調べる機会を作っている。is を強調して発音練習をしたり，辞書で given にも目を移させて，given name のいくつかに言及することもある。このようなことが，名前の多様さを知る機会になればと思つてのことだ。

「これからこんなに辞書を引かなければならないの？」と恐れを感じ始め，辞書の細かな文字に目が疲れた新入生に，giveaway, given と同じページにある glad を見るように指示して，辞書指導を終えることもある。「Am I ever glad it's over. が今のみんなの気持ちだよ」と言つて，この英文を数回発音練習してから，辞書にある glad の例文を読むように指示する。

4. Can using dictionaries be an enjoyable 'activity'?

辞書指導で重視していることは，「また辞書を使ってみよう」，「やっぱり辞書を使う必要があるんだ」と生徒が思うようにすることだ。「辞書で調べてみると面白いことが書いてある」と実感すれば，自ら語彙を辞書で調べる姿勢に結びつくはずだ。

私は電子辞書の『ジーニアス英和辞典』も併用しているが，その便利さゆえに，今では手放せない道具となった。「あんな小さい画面ではだめ，紙製の辞書でないと勉強にならない」という意見と，携帯電話の画面がごく当たり前であり，「電子辞書の画面，じゅうぶん大きいよ」という若い世代の間にギャップがあることも感じている。i モードのジーニアスなら，彼らにとって何の違和感も無いのかもしれない，と思ったりもする。

生徒にとって，辞書を使う楽しみは始まったばかり。It looks like the fun is just beginning! であることを常に心に留めておきたいものだ。

(はが しゅうえい・山形県立山形西高等学校教諭)